

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	歴史
科目基礎情報						
科目番号	1A042			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	『新詳世界史B』（帝国書院）、『グローバルワイド最新世界史図表』（第一学習社）					
担当教員	宮川 剛					
到達目標						
世界史における重要な諸事件や諸現象について学ぶ。さらに、地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を学ぶ。そして、これらの学習内容が、現代の世界とどのような関係を有しているのかを考察し、よりよき未来を切り開くために必要な視座を獲得する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	世界史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果に加えて、類似の現象についても説明することができる。		世界史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果について理解できる。		世界史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果がよくわかっていない。	
評価項目2	地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解し、授業で学んだ現象についても応用することができる。		地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解できる。		地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解していない。	
評価項目3	世界史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解し、よりよき未来を切り開くための視座を獲得している。		世界史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解している。		世界史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解できていない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	・現代世界の歴史的背景を学習することにより、現代世界の課題を見出し、その解決に向けて思考し、行動するための基礎的な知的訓練を積むことができる。 ・世界の国々の文化や社会の歴史的背景を学ぶことにより、グローバル化の時代にふさわしい教養・知識を身につけることができる。 ・現代の日本とは異なる過去の社会や人々の生活を学ぶことにより、物事について多様な角度からアプローチするための訓練を積むことができる。 ・歴史における人類の偉業ならびに愚行について考察することにより、これからの世界を形作るうえで必要な教訓を得ることができる。					
授業の進め方・方法	・授業は主に講義形式で行なう。指定の教科書・資料集を用いて、主に近代以降の世界史に重点を置いて学習する。 ・日本史との関連にも留意して、授業を進める。 ・基本的な歴史的事実を学習した後、担当教員との質疑応答のやり取りをつうじて、講義内容の理解を深めていく。 学生には積極的に発言・質問することを期待する。 ・授業中配布する資料や文章を読んだり、レポートを作成したりすることにより、思考力や文章表現力を鍛える。					
注意点	課題提出を怠らないように。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	イントロダクション		世界史を学ぶ意義について。	
		2週	大航海時代：世界の一体化の開始		ポルトガルのアジア進出とスペインのアメリカ進出	
		3週	ルネサンスと宗教改革		イタリア・ルネサンス。ルネサンスと科学。ルター、カルヴァンの宗教改革。	
		4週	主権国家体制の確立		スペインの盛衰とオランダの台頭	
		5週	17世紀の危機とその後		イギリスの革命。フランスの絶対王政。英仏の抗争。	
		6週	革命の時代のヨーロッパ・アメリカ（1）		アメリカの独立	
		7週	革命の時代のヨーロッパ・アメリカ（2）		産業革命	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	革命の時代のヨーロッパ・アメリカ（3）		フランス革命とナポレオン①	
		10週	革命の時代のヨーロッパ・アメリカ（4）		フランス革命とナポレオン②	
		11週	革命の時代のヨーロッパ・アメリカ（5）		小括	
		12週	ナショナリズムの時代のヨーロッパ（1）		ウィーン体制の成立	
		13週	ナショナリズムの時代のヨーロッパ（2）		1848年の革命と第二帝政	
		14週	ナショナリズムの時代のヨーロッパ（3）		クリミア戦争	
		15週	前期定期試験			
		16週	ナショナリズムの時代のヨーロッパ（4）		ドイツ、イタリアの統一	
後期	3rdQ	1週	イスラーム世界の変容と模索（1）		オスマン帝国の繁栄と衰退。	
		2週	イスラーム世界の変容と模索（2）		エジプトの近代化	
		3週	インドの植民地化		ムガル帝国の繁栄～インド社会の変容。	
		4週	19世紀の東アジア（1）		ヨーロッパ諸国の進出とアジア諸国の動揺（三角貿易、アヘン戦争）	

		5週	19世紀の東アジア（2）	東アジア諸国の対応（洋務運動、明治維新）
		6週	19世紀の東アジア（3）	東アジア国際秩序の再編①（19世紀後半の日本・清・朝鮮。日清戦争）
		7週	19世紀の東アジア（4）	東アジア国際秩序の再編②（変法運動。義和団事件。韓国併合）
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	帝国主義の時代（1）	科学の進歩と第二次産業革命。独占資本主義。
		10週	帝国主義の時代（2）	アジアやアフリカにおける植民地化の動き①
		11週	帝国主義の時代（3）	アジアやアフリカにおける植民地化の動き②
		12週	第一次世界大戦とロシア革命（1）	第一次世界大戦の背景
		13週	第一次世界大戦とロシア革命（2）	第一次世界大戦の経過
		14週	第一次世界大戦とロシア革命（3）	ロシア革命
		15週	後期定期試験	
		16週	第一次世界大戦とロシア革命（4）	第一次世界大戦とアジア

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的 分野	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0